

9月21日 第5回人事委員会公開審理の様子

《先生側証人：上野正》

・松岡先生の医療技術について

卓越した治療能力と熱意によって、2度も助けられた患者さんの例を挙げ、最後をどうするかという時に松岡先生を中心とした チーム医療 により、意識も戻り退院できたと、医師としての優秀さを証言。今先生がセンターに居られたら、多くの命を助けることが出来た筈だ。

・「助かる会」については

会員は患者・家族を中心に約180名。センターの救急・急性期医療をやめるというので、危機感を持ち立ち上げた。ここは全国でも2番とも3番とも言われた専門病院。厚生労働省脳卒中研究班のうち指導的中核病院5箇所の一つに選ばれている。この救急・急性期医療を取りやめたら大変で、横浜だけでなく全国の脳卒中医療に影響する問題だ。

集会やデモ、何回も市長に要望、市会議員への働きかけ、署名運動をした。

署名運動で松岡先生の復帰を求めた理由は、先生は市が隠していたセンターで起きた2つの事故を、内部で厳しく指摘した結果、事故が明るみに出た。この報復であるとセンターの12人の同僚が疑問と抗議を公表している。これは大変なことだ。優れた医師が居なくなるのが困るだけではない。

『世の中には正義というものもあるのではないのでしょうか。』

・署名に関して

前回の市側の弁護士が「内容も見ないでいい加減に署名したのでしょう。署名とはそういうものだ」という発言に対して、『個人の人事に関わるものなので、集める人がよく説明し、その人の信用で書いてくれた人もいたし、それでも先生を知らないから書いてくれなかった人もいる。“蟹はおのれの甲羅に似せて穴を掘る”という。いい加減だと言った人はいい加減に署名するかも知れないが、まともな人はそうはしない。』

・チーム医療について

(市側は、「先生が看護師を長く叱ったり、リハビリや外科医の悪口を言うので、チーム医療が出来ない」という理由で、配置転換をしたと主張しているが)

『チーム医療 とはプロのサッカーチームのようなもので、フォワードがうるさいからゲームが出来ないなどと言えない。 チーム医療 とは“仕事”なのだ。仲良しチームではない。叱られたり、悪く言われた内容が間違っていたら堂々と反論すればよい。』

・市側の岡弁護士の反対尋問

「松岡医師が書類を書かなかったので、治療に困るのでは」に対して、『患者としては手続きよりも治療の方が大切だ。』それに対して、「あなたは、退院サマリーを書かなくても良いというのですか？」と詰め寄った岡弁護士に対し、『退院サマリーなどとは一

言も言っていない。質問は正確にお願いします。』

と応じた。これには思わず笑いがこみ上げた。

また、岡弁護士は「チーム医療はサッカーのチームとは違う、サッカーは勝つことがただ一つの目的だが、チーム医療は・・・」(エッ!! 患者を治すのが目的じゃないの?と驚いたが、さすがにそこで気がついたか)「色々の分野があって・・・」と声が小さくなる。

初めの居丈高な態度がだんだん変わってきたのは気のせいでしょうか。

傍聴した「助かる会」メンバーの感想は概ね“よかった!”でした。

《市側証人：当時岡田衛生局職員課長》

「松岡医師が診療内容をけなしたため、リハビリや外科医が異動、退職を希望した。また、職員の悪口を言ったと看護部長などから聞いている。これに対し、当時の山本センター長に、適切に対応して欲しいとお願いした。

平成16年10月中川管理部長から、中村看護部長が退職したいと言ったことを聞いた。理由は看護師がいじめを受けて対処できないと。翌17年1月～2月、中川管理部長から電話で松岡医師の苦情を言ってきた。

着任したばかりの福島センター長から2月に衛生局長に危機的だと報告があり、具体的に対応をして欲しいと要望。同じく着任したばかりの山口神経内科部長も加わって、松岡がいるとチーム医療が出来ないと人事異動を要請した。

この人事異動は衛生局長と総務部長と私(岡田課長)で決めた。

3月7日にセンター長、管理部長から話して貰った。」というもの。

この証言で分かったことは、岡田課長は中川管理部長、看護部長、二人の新任の福島センター長と山口神経内科部長から聞いただけで、松岡先生本人や他の神経内科医師の話は一つも聞いていない。聞こうともしていない。そして異動を決めている。

福島医師と山口医師は松岡先生を追い出すために送り込まれたと考えられる。

松岡先生側の彦坂弁護士が『“懲戒”に該当するとは考えなかったのか?』と質問すると、「そう簡単にはいかないから・・・」とウッカリ“懲戒”の代わりに“不利益処分”であることを窺わせる答弁も。

9月13日亀田さんの裁判がありました。

証人はセンターの脳神経外科医だった高梨医師と小島医師(執刀医)。

手術のビデオも上映され、器具の管を挿入するとワーッと出血し画面が真っ赤になる場面に衝撃を受けました。この一瞬で人の運命が・・・決まったのだとゾッとしました。医師が未経験の手術をしたため重篤な傷害を受け、今もご本人はもちろん御家族の苦しみを思うと“許せない!”怒りで一杯になりました。

高梨医師は、「ビデオは2次元だからこれを見ただけでは分からない。実際は3次元

だから」と。(では何故ビデオ撮影するのでしょうか?)

権威として知られた防衛医大の石原先生の、外部の専門家としての意見『青戸病院(医師等が逮捕された)と同じ』に対して、「それも一つの意見ということだ」と流す。

あの手術は倫理委員会にかけるというルールを無視した点については、「文面上はそうです」などと勝手な理屈を一方的に大声、早口で述べるのみ。客観的な事実、能力や評価の価値を全く認めていない。

また「手術の前に綿密に打ち合わせをした。」という証言をしましたが、小島医師の証言では、「手術は主治医の吉田医師が行うものと思っていた。手術室に入ってから、私が執刀することになった。」とのこと。

どちらが真実でしょう?